

国々は国境なき時代をどう生き抜くか

同志社大学大学院教授
浜^{はま} 矩^{のり} 子^こ

- *地球は一つ、されど国々は多数
- *レスキュー隊をレスキューする
- *未経験の「中央銀行恐慌」
- *グローバル時代に「対岸なし」
- *ユーロは消滅する
- *円単一通貨圏は続くのか
- *「自由、無差別、互恵」という理念
- *アメリカが転換した訳
- *「鎖国」という悪魔のささやき
- *分かち合いの「シェア」へ



浅野 それでは開会いたします。（拍手）
暑い中、お集まりいただきありがとうございます。冷房が利かないぐらいたくさん来ておられます。浜さんの講演会はいつもたくさんお出いただきますけれども、今年がいちばん多いですね。経済倶楽部の会員の皆さんの間で浜さんの評価がますます高まってきているということかと思います。

とにかくテレビ、新聞、雑誌、書籍で本当にお忙しくて、書籍も毎月のように出ていて月刊誌みたいな感じもしますけれども、PHPPビジネス新書の『「通貨」を知れば世界が読める』が今いちばん売れている本です。ぜひお読みください。新聞の書評もとても好意的でした。いつも申し上げていますけれども、同志社で

は質疑からレクチャーが始まるということですが、こちらではそうもいきませんので最後に10分ぐらい時間を取っていただきます。日本のサンデル教授はまさに浜さんでして、（笑）白熱教室のようになればと思います。それではよろしくお願いいたします。（拍手）

浜 本日もまたお声をお掛けいただきまして、たいへん幸せなことでございます。いつも非常にプレッシャーのかかるご紹介をいただくのですが、本日もいつにも増して一段とそういう感じがいたします。このプレッシャーにいかに対応するかというのが、本日の私の大きな課題かなと今思っています。

さて本日は「国々は国境なき時代をどう生き抜くか」などという、まことに大それたタイトル